Topics
特集

視覚化シートを通して見る 入院中の高次脳機能障害支援のポイント

今号の特集は、千葉リハ作成の『入院からの高次脳支援視覚化シート』を一部お披露目しながら、退院へ向けた高次脳機能障害支援についてご紹介します。

視覚化シート作成の経緯

発症 → 急性期 → 回復期 → 社会的リハ → 社会復帰

高次脳機能障害は、障害像が多様で個別性が高く、社会的背景も考慮すると、オーダーメイドの支援が必要になることが多いです。しかし、それにはまず標準的な支援が確立されていることが大切です。千葉リハでは、回復期リハ病棟における高次脳支援を整理した視覚化シートを作成しました。シートは、左から右に向かって時間が進み、各時期に検討すべき支援を項目ごとに整理しました。復学や地域生活への復帰など**目標別に4シート**ありますが、**今回は就労を目指すシート**に沿って、入院中の支援のポイントをご紹介します。

1 職業準備性ピラミッドを意識した自己管理のポイント

ここがポイント!

働くための土台「職業準備性」

中島ソーシャルワーカー

職業準備性ピラミッド

職業準備性の土台にあたる病識・健康管理、生活リズム・疲労コントロール・スケジュール管理・移動方法等の生活管理、対人技能をシートに位置づけることで、入院中から提案できるアプローチを明確にし、実践します。職業準備性は、障害の支援や受け入れ環境との相互関係の中で見ていく必要があり、職業生活の継続のために、本人が努力すべきこと、企業が配慮すべきこと、支援者が支援すべきことを整理するための視点として捉えることが大切です。

2 他者とのコミュニケーション

他者とのコミュニケーション
（気になる項目があればチェック → 多職種で対応方法の検討・統一）
【対象】□慣れた相手 □不慣れな相手 □特定の他者 □集団での交流
【表出】□攻撃性 □冗長性 □社会人としての対応
【理解】□聞き洩らし □内容の混乱・変容 □独自の解釈

ここがポイント!

職場にふさわしいコミュニケーションのために

失語症、注意障害、記憶障害、脱抑制などの症状がある方は、対人コミュニケーションについて以下のような問題が生じる場合があります。

【対象】慣れた相手や特定の相手は得意だが、不慣れな相手や集団での交流の場でのコミュニケーションは苦手。

【表出】話す内容にまとまりが無く要領を得ない（冗長性）、周囲の状況に気づかず一方的に話し続ける、ミスを指摘されると攻撃的になる。

【理解】伝達事項を聞き漏らす、内容が混乱・変容する、内容に独自の解釈を加える。

このような問題を入院中にチェックすることで、その方に必要なリハビリを提供したり、能力に合った対処方法を考えたりしながら、ご本人と共にリハビリを進めていきます。

4 こ～じのぅ掲示板 46

4 フィードバックと自己認識

□Deep検査結果フィードバック
□高次脳症状の仕事への影響について の理解度確認
□本人の高次脳に対する理解度確認
□家族の高次脳に対する理解度確認
□二次障害の説明

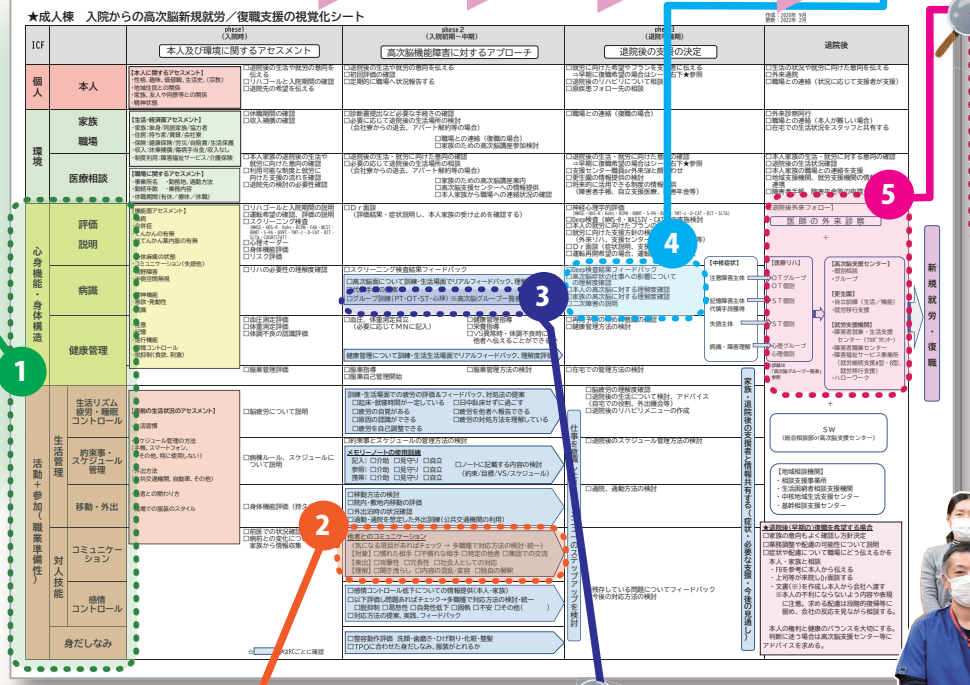
ここがポイント!

自身の症状を知ることが対策への近道

三宅心理師

リハビリによって障害自体の改善を目指すだけでなく、苦手な部分を補うための対策（代償手段）も大切です。この代償手段をうまく使いこなすためには、まずは現在の症状について知り、どんな対策が必要なのかを考えることが第一歩となります。しかし、高次脳機能障害は目に見えにくい障害であり、ご自身の症状になかなか気づきにくい場合も多いです。検査結果や入院生活の中で生じている課題について、面談や訓練の中で丁寧にフィードバックすることで症状への気づきを促し、代償手段の活用や、目標に向かうためのステップについて一緒に考えます。

支援項目は『入院時から退院後』の流れで進む


★成人棟　入院からの高次脳新規就労／復職支援の視覚化シート
ICF
phase1（入院時）
本人及び環境に関するアセスメント
phase2（入院期間～中期）
高次脳機能障害に対するアプローチ
退院後の支援の決定
退院後
個人
本人
環境
家族
職場
医療相談
心身機能・身体構造
評価
説明
病識
健康管理
活動＋参加（職業準備性）
生活リズム 疲労・睡眠コントロール
生活管理
約束事・スケジュール管理
移動・外出
対人技能
コミュニケーション
感情コントロール
身だしなみ
【本人に関するアセスメント】
【生活・健康面アセスメント】
【職場に関するアセスメント】
【医療に関するアセスメント】
【生活リズム疲労・睡眠コントロールのアセスメント】
【メモリーノートの使用開始】
【他者とのコミュニケーション】
【表出】□攻撃性 □冗長性 □社会人としての対応
【理解】□聞き洩らし □内容の混乱・変容 □独自の解釈
【対象】□慣れた相手 □不慣れな相手 □特定の他者 □集団での交流
□ストレス対応のスキルアップの検討
□仕事上の悩みの相談
□職場のフィードバックを実施
実践・退院後の支援や情報共有する（症状・必要な支援・今後の見通し）
□グループ訓練（PT・OT・ST・心理）
□高次脳グループ一覧表参照
□ハイパーカフェ
□ハイパーカフェ
□ハイパーカフェ